

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	交通安全施設整備事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	維持管理係	評価票作成者	課長補佐兼維持担当係長 朝岡 正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	道路	コード	3 1 1
	項	道路・交通			単位施策(中)	生活道路の整備	コード	3 1 1 2
					単位施策(小)	交通安全施設の充実	コード	3 1 1 2 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市道 1,388路線 延長366,441km		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	生活道路の安全性確保。			
1-5 事務事業の内容	交通安全のための道路施設整備。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	維持補修にあたって、利用者へ配慮した方法で実施した。	財政難による予算の確保に苦慮した。		要望意見の統一性が無く、個人本意の要望が強くなった。	
	平成19年度	〃	〃		個人意識の多様化に伴う対応に迫られた。	
	平成20年度	交通安全施設の区長要望について、迅速な対応をするようにした。	より効果の高いものを考慮するようにした。		〃	
	平成21年度	平成21年度から交通安全施設の区長要望について、調査・結果を1ヶ月を目途に、危険度に応じて出すよう努めた。	〃		〃	
	平成22年度	道路反射鏡や外側線の消えかかっているものなどの交通安全施設について、区長要望などで受け付け、効果を比較検討した上、迅速な対応をするよう努めた。				
	平成23年度	道路反射鏡や外側線等の区画線などの交通安全施設について、区長要望などで受け付け、効果を比較検討した上、迅速な対応をするよう努めた。				
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	交通安全施設に対する、要望、苦情件数		200(件)	150(件)	市道の『安全な空間』を確保する目的で、道路施設利用者からの苦情、要望等の件数を数値目標と定めた。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	55(件)	47(件)	38(件)	38(件)	38(件)	50(件)				
	人件費 c(千円)	11,947	12,498	19,304	17,998	18,160	17,570				
	合計コスト d(b+c)(千円)	6,656	6,656	6,656	6,656	6,448	6,240				
	単位コスト d/a(千円)	18,603	19,154	25,960	24,654	24,608	23,810				
	契約件数1件当たり	契約件数1件当たり	契約件数1件当たり	契約件数1件当たり	契約件数1件当たり	契約件数1件当たり					
	338	407	683	649	647	476	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 交通安全施設の内、苦情要望等で受け付けた内容の内、実際に処理できた件数(発注件数)で、管理者実施分を含まない実数。人件費は維持係全体の事業費からの按分 人件費=2,080時間×3.0=6,240(千円)/時間

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値に対する達成度(%)	162	157	121	75	57	73			

H16現状値：248、(248 - 現年実績値) ÷ (248 - 後期目標値)

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	A	A				

4段階評価結果
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	計画的な維持管理に努め、苦情要望件数の減少につなげたい。	路面表示について、重点的に取り組みたい。	限られた予算の中でおおむね要望に応えられた。
平成19年度	"	道路反射鏡について、重点的に取り組みたい。	"	
平成20年度	"	路面標示について、重点的に取り組みたい。	"	
平成21年度	"	"	"	
平成22年度	路面標示の消えかかっているところは、面的に整備するよう心がけた。交通事故件数を把握しつつ、効果の高い赤色・緑色塗装標示も検討に入れる。			
平成23年度	経年劣化による路面標示の引き直し等、面的に整備するよう心がけた。交通事故件数多発地区を中心に、効果の高い赤色・緑色塗装標示も検討に入れる。			
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		